

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	BLUE PLANETSはいき		
○保護者評価実施期間	令和 6年 12月 1日		～ 令和 6年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	令和 6年 12月 1日		～ 令和 6年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育で行っており、フォーマル・インフォーマルなアセスメントを元に、子どもの特性を把握し、それに応じた支援計画を立案し、プログラムが固定化されないよう工夫できている。	できるだけ複数のスタッフ・専門性の高い職種が介入し、色々な視点・考えで関わり、技術指導を実践し、柔軟に療育内容を変更している。また、療育・アセスメントに関する書籍を定期購入したり、研修に参加し、最新情報を共有している。	今後も継続して、アセスメントを丁寧に行い、事業所内研修等で最新の情報を共有しながら、より良い支援を提供していく。
2	保護者同室での療育であり、日頃の子どもの状況、家庭や学校での様子を聞き取り、共通理解ができ、共感的な支援、子育てに関する助言が行えている。	来所時に、保護者様から情報を収集し、相談や悩みをしやすいように、笑顔で受容的に関わるようにしている。保護者様も一緒に療育に参加してもらいながら、子育ての工夫・配慮について一緒に考えていけるようにしている。	今後も継続して、保護者様も巻き込みながら、共感的な支援を行っていきます。職員の研修参加など自己研鑽しながら、スタッフでの勉強会など行っていきます。
3	発達障害のお子さんだけでなく、就学後の肢体不自由のお子さんも、頻度を調整しながら経過観察を続けフォローしている。	成長期や発達状況・過程に気を付けながら、学校や他事業所、保護者様と情報交換を行っている。	学校や家庭など生活場面において役立つ方法の検討、補装具、姿勢保持具の調整などを、関係機関と連携しながら進めていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別療育が必要な子ども、個別療育を求める保護者をメインの対象としているため、小集団療育で他のお子さんとの関りが少ない。	お子さん一人一人に合わせた個別療育を行っているため、グループでの実施が難しい。	子どもさんの状況に合わせて、同じ時間にご利用のお子様と一緒にゲームやルール遊びなどで関わる機会を提案していく。また、小集団での活動が必要なお子さんは、まどか教室や別の事業所の提案を行っていく。
2	非常時を想定した訓練を実施し、保護者にアプリで通知しているが、非常時のマニュアルなどが、保護者に周知できていない。	マニュアルなどを掲示したり、閲覧できるような工夫が足りない。	事業所内でのマニュアルの掲示、連絡網アプリを使った配信など検討する。
3	地域の放課後児童クラブや地域の子どもの交流、保護者会などの保護者同士の交流の機会がなく、きょうだい向けのイベント開催などが行えていない。	個別療育が必要な子ども、個別療育を求める保護者様が多いため、実施していない。	個別療育にて子ども一人ひとりの発達促進を図り、普段生活している学校や児童クラブで、友達と一緒に活動できることを増やし、インクルージョンを進めていく。また、保護者同士の交流を希望される場合は、既存の親の会などを紹介していく。